

(注)

全身性エリテマトーデス、全身性硬化症（強皮症）、多発性筋炎、皮膚筋炎、血管炎症候群（結節性多発動脈炎、顕微鏡的血管炎、ウェグナー肉芽腫症、アレルギー性肉芽腫性血管炎、側頭動脈炎、高安病など）、悪性関節リウマチ、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、ベーチェット病、成人スティル病、リウマチ性多発筋痛症等

8-3. 内分泌疾患（肥満を含む）

- ① 副腎皮質機能低下症
- ② クッシング症候群のうち、未治療および治療後もステロイド合成阻害剤等の薬物治療中にもかかわらず高コルチゾール血症が持続する者、あるいは副腎皮質機能低下症を併発している者。
- ③ 下記の疾患に伴う二次性肥満症のうち糖尿病を合併している者
 - ・ブラダーウィリー症候群
 - ・先端巨大症
 - ・クッシング症候群（先端巨大症、クッシング症候群で治療後の者は原則優先対象とならないが糖尿病が継続する場合は優先対象とする。）
- ④ 内分泌臓器の悪性疾患
内分泌臓器の悪性疾患にて放射線療法、あるいは化学療法中での結果ホルモン産生能が低下した症例は優先される。例えば、下垂体機能不全、甲状腺機能低下症、副腎皮質機能低下症等を示す症例では特に優先対象となる。
- ⑤ 甲状腺機能が正常化していない甲状腺機能低下症（橋本病等）
- ⑥ BMI >30または腹部内臓脂肪面積が 100cm^2 以上で慢性疾患（睡眠時無呼吸症候群、慢性心不全、慢性呼吸器疾患、慢性腎不全等）を合併する者

8-4. 消化器疾患（肝硬変を除く）

- ① 消化器癌の担癌患者および切除後の患者のうち、現在免疫抑制を伴う抗癌剤治療を受けているもしくは受ける予定の者（8-1. 悪性腫瘍を参照）
- ② 炎症性腸疾患患者（潰瘍性大腸炎、クローン病）のうち、免疫抑制を伴う治療（免疫抑制剤、副腎皮質ステロイドホルモン、分子標的薬、白血球除去療法）を受けているもしくは受ける予定の者
- ③ 自己免疫性肝疾患や膵臓疾患で免疫抑制薬または副腎皮質ステロイドホルモンを継続して使用中の者
ただし、全身状態が著しく不良でワクチン接種が困難な者や、免疫不全状態でワクチン接種の効果が期待できない者はワクチン接種対象者とならない。

8-5. HIV 感染症・その他の疾患や治療に伴う免疫抑制状態

- ① 原発性・後天性の免疫不全疾患（HIV 感染症を含む。）
- ② 免疫抑制薬または副腎皮質ステロイドホルモン※1を継続して使用中の者
- ③ その他、免疫抑制状態と医師が判断する者（臓器移植後患者を含む。）

※1：成人の場合、プレドニゾロン換算で 5mg/day 以上を目安とする。

のうち7人がスクラッチテスト陰性、皮内テスト（15分後判定）陽性 $10\times 10\text{mm}$ 以上であった。陽性7人全員がテスト局所の熱感と搔痒感を訴えた。この7人にはワクチン接種を行わなかった。48時間後に皮内テストを判定した。1名が $6\times 6\text{mm}$ 、1名が $5\times 5\text{mm}$ 、1名が $1.5\times 1.5\text{mm}$ であり、残りは陰性であった。15分後の判定陰性の2人にワクチン接種を行ったところ、52歳女性（勤続15年半）は胸内苦悶と項部の強いジンジン感を訴え、接種30分後には目がうるみ、眼瞼浮腫が認められた。当日と翌日にアタラックスPを処方した。なお、皮内テスト48時間後判定は $2\times 2\text{mm}$ であった。43歳女性（勤続5年）は15分後に軽度の胸内苦悶を訴

えた。接種局所に異常はなかった。皮内テスト48時間後は陰性であった。結局看護師の9名全てがA(H1N1)2009<単価ワクチン>にアレルギー反応を示した。当施設では1997/1998シーズンから毎シーズン、職員、入所者とも毎年のインフルエンザワクチン接種率100%を維持してきた。9名の看護師の平均勤続年数8.6年±4.2年（最長15年5月、最短1年6月）と長い。そのため、インフルエンザA(H1N1)2009に強く感作されていた可能性もある。2010年2月3日まで入所者のインフルエンザ発症者はゼロである。職員2名が罹患したが、2次感染はない。